

# YOU

# 報

No.73  
2004.3

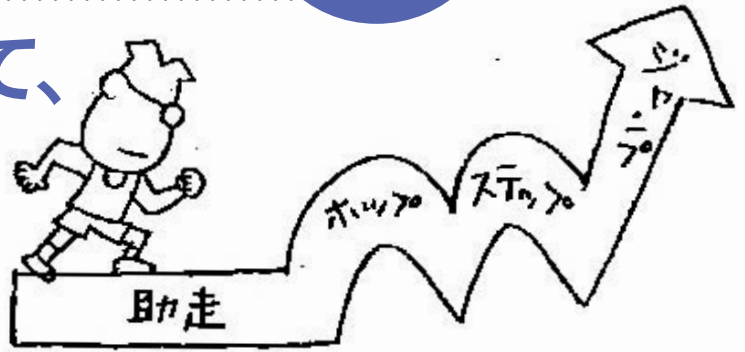
医療法人  
⊕大雄会

発行者 伊藤伸一  
編集 広報室  
編集協力 HIPコーポレーション

SPECIAL

## 大いなる飛躍に向けて、 今年は大切な 助走の一年です。

キーワード①医療の変化  
キーワード②私たちの変革



S P E C I A L

### 新しい医療の時代に向けて、 今から必要なことがあります。



医療法人大雄会  
理事長  
伊藤 伸一

大きな将来を  
獲得するための  
一年が始まりました。

本年最初のYOU報です。そこで私たち大雄会にとって、この一年はどういう年なのかを、今回はお話ししたいと思います。

この一年とは、大きな飛躍に向けての、助走の一年と表現することができます。そこでは、私たち自身がさまざまな面で変革を行い、それを力にして私たちを取り巻く環境の変化を、乗り越えなければなりません。そ

の意味では助走の間に急勾配の上り坂もあるかと思いますが、何とか全員で団結し、目標に向けて頑張っていきたいと考えます。

時代の変化には、  
積極的に  
挑戦していきます。

環境の変化について例を挙げると、地域からの声が高い第三次救命救急センター設置があります。この地域ではどこがそれを担うのでしょうか？全国的に公的医療機関が衰退を辿る今、民間病院である大雄会にし

かそれはできません。大雄会が担うことで、地域の方々に喜んでいただくと私は確信しています。

また、急性期医療での診療報酬の包括払いという新しい枠組みも、大きな環境変化といえます。この枠組みでは、病院が提供する診療の内容により医療の質を問われることとなります。高度急性期医療分野で、患者さまに適切かつ効果的な医療の提供をめざす大雄会は、スムーズにその導入を果たさなくてはなりません。

こうした時代の変化を先取りし対応する。私は、そうした積極果敢な挑戦をしていきたいと考えます。それを実現できる基盤が、大雄会にはあるからです。

現在ではなく  
未来を見つめ、一緒に  
考えていきましょう。

時代の変化を先取りし対応するには、私たち自身の変革が必要です。まずは職員全員が医療に対する視野や価値観を、もっと広げたり柔軟にしたりする必要があります。また、より良い環境の整備や、各部署での医療サービス提供システムの変更、管理体制の見直し等々、現実的

な課題が残されています。

環境の整備においては、総合大雄会病院の南館の工事が始まります。南館の建て替えは、高次救命救急医療と、紹介患者さまへの入院治療を中心とした高度急性期医療の提供、さらには、いずれ来るであろう保険外負担増大の時代にもしっかり対応するという、大きな夢と課題を抱いて行きます。

なお、システムの変更や管理体制の見直しという現実的な面では、これからみんなで考え、行動しなければなりません。皆さんには負担感が大きいかもしれませんが、しかし、その先にはこの地域でNo.1になるという、大きな夢が待っています。その夢を手にすることができれば、大雄会は企業として安定し、それがひいては地域の幸せに繋がります。もちろん皆さんにとっても、働く環境の向上や経済的な基盤の強さに結びつくこととなります。

南館は平成17年度中の完成を予定しています。これからの二年が、私たちの助走期間です。この間に、「それからの新しい大雄会」はどうあるべきか、みんなで考えていきましょう。

## 大雄会クリニックオープン

## 新生大雄会クリニックが、 法人内の外来機能をより明確にします。

**大**雄会クリニックは、医療法人大雄会の外来機能分離を目的に、昨年12月に新築オープンしました。大雄会クリニックでは、入院のための病棟から完全に分離した形で、各診療科の職員が力を合わせ、患者さまへの外来診療活動を行っています。ご利用の患者さまにも、「外来受診が分かりやすくなった」「清潔感があって快適」と、まずまずのご好評をいただいているようです。特に、眼科と内分泌内科のように、深い関



わりを持ちながらも、これまで法人内の別々の施設にあった診療科も当クリニックが一括して担うことで、患者さまの負担の軽減や、利便性の向上にも貢献を果たしています。ただし、「待ち時間が短くなった」という評価は、3カ月を経過した現在でも残念ながらいただけていません。予約診療を実施していますが、予約数が多く、余裕を持って受け付けることが難しいうえに、緊急の処置などが重なり、どうしても予約時間がずれ込んでしまうのが現状です。この点が、早急に取り組むべき課題であると考えています。

**待**ち時間の長さは、患者さまだけでなく、職員にとっても負担になるものです。医療の質の低下や医療ミスを防ぎ、いざという時の

ために余裕を持って診療活動を行うためにも、待ち時間の無いスムーズな外来診療を実現しなければなりません。それには、院内での改善だけでなく、法人内の各施設をはじめ、地域診療所との有効な連携体制を築くことが必要です。そのうえで自らの専門性をさらに高め、地域医療においては特殊外来機能を有するクリニックとして、また法人内においては急性期入院機能の窓口として、その役割を十分に果たしていきたいと思えます。職員の皆さんは、ぜひ、個々の専門分野において自らの能力を高める努力を重ねてください。そして「大雄会クリニックの医療」を、全員で作りに上げていくことを期待しています。

大雄会クリニック 院長 伊藤 康雄

## 大雄会桜分院オープン

## 大雄会桜分院が活動をスタート、 大雄会の未来のために、「今」を支えます。

**大**雄会桜分院は、213床を有する急性期・回復期の入院施設として、昨年12月より活動を開始しました。診療科ごとに病棟を持つ総合大雄会病院とは異なり、すべての病棟が混合病床である桜分院では、それぞれの病棟に各診療科の入院患者さまが混在しています。これまで総合大雄会病院で診療科ごとにチームを組んで活動してきた看護職員にとっては、桜分院での各科混合という病棟看護体制が特に新しく、開院当初には多少の混乱もあったようです。また職員全体の間には、システム面での変更に対する戸惑いや、スペースの狭さに伴うさまざまな不便が見受けられました。

**こ**れらの問題に対して職員の皆さんには、各病棟で積極的に

話し合いを進め、早急に改善を図っていただきたいと思います。そして互いの意見を尊重し合いながらチームワークを固め、これまで以上に強い連携でチーム医療を行い、安全で調和のとれた医療の提供に努めてください。幸いここまで医療事故もなく、患者さまに安全な医療を提供することができています。今後は医療の中身に対する検証を進め、質の向上をめざしていきたいと思えます。

**桜**分院はあくまでも2年間の暫定的な施設です。設立の最大の目的は、法人内病院群の一員として、総合大雄会病院の建て替えの期間、入院機能をしっかりと支えることにあります。とはいえ、急性期病院のなかに回復期リハビリテーション病棟を持つ特殊な病院として、法



人内で期待される部分も大きいはずですが、2年後、さらにはその先の医療法人大雄会の医療をより良くしていくために、私たちは今ある患者さまに最善を尽くし、法人内各施設との有機的な連携を図りながら、大雄会の「今」を支えていきます。そのための協力を、大雄会全体の職員の皆さんにもお願いできればと思います。

大雄会桜分院 院長 船越 孝

病院機能評価の認定更新について

第三者による公正な評価をもとに、病院全体のさらなる質向上を図ります。

みなさんご承知の通り、医療法人大雄会では総合大雄会病院、大雄会第一病院が、財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の合格認定を受けています。昨年5月には、5年の認定期間が終了した総合大雄会病院が、審査を受けて認定を更新しました。大雄会第一病院でも、今年3月に更新の審査を受けることになり、その準備が大詰めを迎えています。

認定更新は、前回と同じレベルを維持していれば合格するというものではなく、むしろ認定期間の5年間で、時代の流れや医療界の変化を汲み取りながら、どれだけ進化を遂げたかが問われるものです。5年前の審査では、組

織の構造など病院全体の仕組みに対する評価が中心でしたが、今回の審査では、その仕組みが実際の現場でどこまで有効に機能しているか、各病棟の医療の中身まで問われる内容となっています。特に大雄会第一病院は混合病床が多く、一つの病棟で各科の差が現れやすい傾向にあります。すでに各病棟で自己評価を行い、問題点の改善に取り組んでいることと思いますが、これを機会にぜひ、各病棟職員の団結をより一層深め、さらなるステップアップを遂げてください。現場訪問審査は、そのための有益な通過点です。全職員で一丸となって気運を高め、しっかりと準備を整えておいてください。

なお今回の審査で大雄会第一病院は、「法人内病院群の一つであり、相互補完の関係のなかで独自の機能を果たしている」という点を明確に打ち出します。正直なところ、この方針が現在の病院機能評価のなかでどこまで認められるかは分かりません。しかし受審の真の目的は、合格ではなく、現時点での私たちの考え方や取り組みを第三者に厳しく公正に評価してもらうこと、それによって病院全体の質を高めていくことにあります。この本質的な目的の達成をめざして、みなさんのご協力をお願いします。

大雄会第一病院 副院長 村瀬 寛

Topics

恒例忘年会開催

入職して 年。何度外れようが性懲りもなく抽選会に望みを託し、今回も参加してまいりました。もちろん一番のお目当ては「デザート」。会場に着くやいなやケーキコーナーの近くに陣取り、待つこと数十分。ゆっくり選べると思っていたのに、「乾杯！」の声とともにコーナーには女性職員が殺到。あっという間になくなってしまいました(泣)。結局、抽選にも漏れてしまいました。カラ



ミッキーってピンゴの穴のこと？

オケを聴いたり、巨大ミッキー？に遭遇したりと楽しく過ごせました。これでまた一年、頑張れそうです。 広報室 長谷川 すみ子

YOU報が変わります!

お知らせ

医療法人大雄会職員の皆さま

平素はYOU報をご愛読いただき(?)誠にありがとうございます。UFO(雄報)から現在のYOU報にかわって早4年が経ちました。その間、医療界はもちろん大雄会においてもクリニックと桜分院が開設されるなど、大きな変化がいくつかありました。さらに2年後には、私たちは南館のオープンを迎えます。こうした環境の変化に対し、皆さまの中には、戸惑いや疑問をお持ちの方が少なからずいらっしゃるかと思います。そんな皆さまの疑問、質問を少しでも解消し、また職員の情報誌としてお役に立ちたいという思いから、このたびYOU報はリニューアルすることになりました。リニューアル版では、今までのように院内行事やお知らせを掲載するコーナーのほかに、新しい企画を進めております。発行は平成16年4月の予定です。どうぞお楽しみに。



YOU報

ブレイクたいむ



## ESサーベイ(職員満足度調査)について

職員の皆さんの仕事や職場における満足度を調べるため、昨年10月にESサーベイを実施いたしました。対象者1,174名に対して、1,095名にご回答いただきました(回答率93.2%)。お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございました。また、各職場にてアンケート冊子の配布、回収にご協力いただいた方々に感謝申し上げます。この調査を委託しているHRR(株)ととも

に分析作業を行い、とても興味深いデータがまとまりつつあります。次のステップとしては、この結果を基に、今後の大雄会をよりよくするために、何をしたらいいのかを具体的に考えていかなければなりません。そのためにも、今回の結果をただ皆さんにお伝えするだけではなく、ひとりひとりに理解していただき、何をどう改善していったらよいかを、一緒に考えていただくような機会を設けたい

と考えております。詳細については、改めてお知らせいたします。最近の広報物には、「大雄会、動く。あなたに向けて。」というキャッチコピーが掲げられていますが、この場合の「あなた」は患者さまだけではなく、職員の皆さんも含まれるべきだと考えます。この調査をきっかけに、よりよい職場をつくっていくために、皆さんのご協力をお願いいたします。企画室 加藤 良平

## ふれあい広場

老人保健施設アウンから

### よ き一年を願い、新年会開催。

平成16年は大変暖かく穏やかな一日で始まりました。そんなボカボカ陽気の中、アウン新年祝賀会では伊藤理事長が皆様に、ご挨拶をさせていただきました。アウンも元旦の日和のように暖かく、穏やかな一年を皆様と一緒に過ごしていきたいと願っています。皆様、よろしく申し上げます。

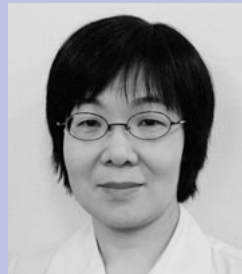
老人保健施設アウン 宮崎 文成



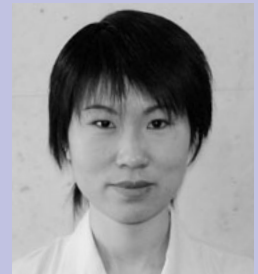
## Welcome to

DAI  
YU  
KAI

新任ドクター紹介



皮膚科部長  
ほりひろこ  
**堀 博子**先生  
(平成16年1月1日着任)



麻酔科  
にのみかずみ  
**新家 一美**先生  
(平成16年1月1日着任)



臨床研修医  
いはらなおたか  
**伊原 直隆**先生  
(平成16年1月1日着任)

消化器外科部長  
にしやまもとはる  
**西山 元治**先生  
(平成16年2月16日着任)

# BackStage

## YOU報 No.73

平成16年3月発行

### 編集部より

いよいよ大雄会の中核であった南館の取り壊しが始まりました。寂しくもありますが、3月は第一病院の病院機能評価認定更新の審査や入職式と重要な予定が控えています。気持ちを引き締めて業務に取り組みたいものですね。YOU報も次号からリニューアル。私たちも気持ちも新たに情報誌を制作していきます。今後とも皆さんのご協力をお願いいたします。



### 思いやりの医療

誓い

- 1. 礼儀
- 1. 誠実
- 1. 親切

### 病院の基本理念

私たちは、患者さま中心で良質の医療を提供するために、右の項目を理念として掲げ実践します。

- 1. 先進医療
- 1. 救急医療
- 1. 予防医療
- 1. 医療の安全
- 1. 地域との連携と貢献
- 1. 情報の公開と発信